

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0270100811 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 諏訪ノ森会 | | |
| 事業所名 | グループホーム星遊荘 | | |
| 所在地 | 〒030-0933 青森市大字諏訪沢字丸山63番2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年8月15日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 | | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年10月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>自然に囲まれた緑豊かに恵まれ、小鳥のさえずり、虫の音が聞こえ、春夏秋冬、季節の移り変わりを行事や景色、食で入居者様、職員共に感じゆっくりと生活をしています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>緑に囲まれた地域でクリニックを中心に老人保健施設や特別養護老人ホームなどあり、総合的な老人福祉施設の拠点となっている。また、法人全体で町内会に加入し、行事等にも積極的に参加して地域とのつながりを大切にしている。その中で「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」の理念のもと、利用者が安心・安全で希望に添った暮らしが継続できるように支援している。。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念に基づいてグループホーム独自の理念を作成している。事務室内に掲示し、職員一人一人が意識し対応するようにしている。ミーティングや会議等で再確認し実践に繋げている。 | 「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」の理念を事務室内に掲示し、ミーティングや会議等で確認しながら実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 敷地内に法人本部があり諏訪沢町内会に加入している。諏訪沢健康相談会に参加したり、地域の商店を利用し、交流を図っている。 | コロナ禍において交流はないものの、例年であれば、お花見会などに参加したり、地域の商店に買い物に出かけたりと日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や面会時、家族へ認知症の症状や対応等について説明している。又、法人で認知症専門士による家族への学習会を設けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議開催時、市役所職員、東部包括支援センター、町会長、民生委員、家族を出席メンバーとし事業所の取り組み課題等を報告し意見交換を行いサービスの向上に繋げている。 | 市の指導により、書面会議にて行事や利用者の現況、受診状況、今後の予定等を報告し、それについて意見をいただいている。いただいた意見後の経過についても報告したり、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の案内を送付し、会議に参加して頂き情報の共有と意見交換をしサービスの質の向上に取り組んでいる。会議終了後は速やかに実施報告書を送付している。 | コロナ禍において、地域包括支援センターに運営推進会議録を送付し、積極的に伝え協力関係を構築できるよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人に身体拘束ゼロ委員会があり、職員で情報の共有を図っている。又、月1回の職員会議の時星遊荘の身体拘束適正化検討委員会で共有を図っている。 | 月1回の職員会議で身体拘束適正化検討委員会で「悪い仕草の防止」を振り返り、常にお互いチェックしあい、身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングや職員会議で、虐待の種類、その具体的な行為を読み上げて再確認している。法人で勤務時間内で高齢者虐待防止/身体拘束廃止の学習会を設けており、すべての職員が学び、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度等の資料を掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、重要事項説明書を基に説明し、理解・納得してうえでサイン、押印を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会や電話連絡時、意見や要望を伺ったり、第三者評価(オンブズマン)を通し改善に繋げている。ご意見投票箱を設置している。 | 家族の面会時等に意見や要望を積極的に伺うようにしている。法人全体でオンブズマンを導入して運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや職員会議等で問題点や意見を吸い上げ、改善策を話し合い実施している。5Sの取り組みを実施し効率アップに繋げている。 | 職員会議、組織業務会議、法人の会議等職員の意見・提案が反映できる体制が構築できている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人で成果制度を取り入れており、個別の実績の評価がされている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で全職員に対する学習会を勤務時間内に行いすべての職員が学べる環境になっている。又施設外研修は、本部人事が勤続年数、スキルに応じた研修プログラムを作成している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 6ヶ月に1回、地域包括支援センターの合同の勉強会があり参加している。学習会を通じて各グループホームとの交流を図っている。各々の課題 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居希望があった時は、事前に施設見学をすすめ概要を説明している。本人、家族様の意見や要望を伺い日常生活や介護サービス計画に取り入れている。何か困っていることはないか伺い対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人や家族の意見・要望を伺い、話し合い日常生活や介護サービス計画に取り入れている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の意見や要望を伺っている。本人の生活歴や趣味等を聞き取り、ADL等の把握し、話し合い日常生活や介護サービス計画に取り入れている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活歴や趣味等を把握し、本人が出来る事、得意なことを一緒に行い喜びや自信に繋げている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 運営推進会議を活用し、家族、地域社会において資源や制度を活用しインフォーマル、フォーマルな支える力を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前利用していた施設に出向き馴染みの人と会うことができるように支援している。 | コロナ禍前は利用していた事業所やなじみの人に会える場所に出向き関わりあえるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 馴染みの関係を考慮し過ごし場所を決めている。一緒にテーブルを囲みアクティビティ等を通して入居者様同士、関りが持てるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了しても、転居先の職員や家族から相談等があった場合は対応している。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族に生活に対する意向を確認して介護サービス計画書作成している。 | 入居時は、法人の相談部から情報を得ながら入居後は、日々の支援の中で思いをくみ取り、意向の把握に努め、職員がその情報を共有できるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族から情報収集を行い、利用調査票を作成している。職員全員が情報を共有しサービスに繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者様の状態をミーティング、職員会議等で話し合い情報の共有を放っている。日常生活やアクティビティ等を通して「出来る事・能力」の発見に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の作成にあたり本人、家族の要望を伺い、現状を把握し、職員で話し合い作成している。 | 本人、家族の要望等を把握し、担当職員がアセスメントを行い職員会議で話し合い、介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の状態変化や新しい発見、普段と違うこと等を記録している。情報を共有しケアの実践に繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズが生じたときは、家族へ連絡し了解を得たうえで対応している。他科受診が必要な時は送迎や付添をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の健康相談会に参加している。その際地域の商店を利用し買い物をしている。運営推進会議に民生委員、町会長も会議のメンバーとなっており、地域の情報や助言を頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人、家族の希望による。現在は月1回隣接している諏訪沢クリニックへ受診している。必要に応じ随時受診できるようにになっている。 | 本人、家族の希望によりかかりつけ医を決めている。他科受診については、家族付き添いや事業所の支援のもと受診できるようにしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活の関りで気づいたこと等は諏訪沢クリニックの看護師に相談しアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 状態変化時は、家族に連絡し希望の医療機関へ搬送している。入院先に介護連絡書で情報を提供し、入院後も面会し、家族や医療関係者から情報を得ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用開始時、重度化した場合等について事業所で出来る事を本人、家族に十分説明している。 | 入居時の説明や入院等には医療的ケアが行えないことなど、事業所でできる事できないことを説明している。また、「急変時における蘇生延命確認書」を取り、職員全体で共有している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応について職員で学習している。すぐに閲覧できるところにファイリングしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を年2回(昼想定・夜想定)実施し災害時の対応を訓練している。法人内の防火管理者に参加してもらい評価や指導を受けている。 | 避難訓練を年2回実施し、災害時の対応についても訓練している。また、地域の方や町内会長、民生委員も参加し協力体制を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の話を傾聴し、すべて受容し共感することを常に意識して実践している。尊厳を損なわない言葉遣いに配慮している。 | STAYの精神(スマイル、タッチ、オール、イエス)を掲げて認知症学習会を行い、安心して生活できる環境を確保している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の生活リズムを尊重し希望を伺い自己決定できるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の希望や感情、心理を理解し本人のペースで楽しく安心して過ごせるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類は季節、天候等を考慮し本人に選んで頂いている。又、受診等に外出するときは場面に合った着替えをしておしゃれを楽しんで頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 楽しく食事ができるように食前には嚥下体操、コーラス、配膳後には本日のメニューの紹介を行っている。能力に合わせ家事作業のお手伝いができるように支援している。 | 食前に嚥下体操等を行ったり、配膳後にメニュー紹介したり楽しい食事になるように支援している。また、利用者には下膳を手伝っていただいている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は管理栄養士が作成したバランスの良いものとなっている。水分量を把握して個別に対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、本人の口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個別の排泄サインや排泄表にて排泄パターンを把握し対応している。排泄動作では声掛け、促し、ジェスチャーで出来る事の継続の支援を行っている。 | 排泄パターンをチェック表を用いて把握したり、本人の仕草等で、トイレ誘導のタイミングを把握して支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、排便・水分量・食事摂取量の確認を行っている。好みのもので水分量を調整している。毎日の軽体操を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 週二回の入浴日を決めているが、体調や本人の意思を確認して行っている。水曜日以外毎日入浴を行っているので本人の意向に合わせた柔軟な対応をしている。 | 基本的には最低週2回入浴できるようにしているが、水曜日以外は毎日入浴を行っているため、本人の意向に合わせた支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日の体調や気分、状況に応じて好きな時に寝たり起きたりできるようにその人のペースに合わせて支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬前、名前・日付・時(朝・昼・夕)を声に出し確認している。服用薬品名カードを個人ファイルに綴り、効果や副作用を確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎月お料理教室を行っている。入居者様から食べたいものを伺い、田舎料理等のリクエストがある場合は、入居者様に料理の先生になって頂き活躍の場を設けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 行きたいところを伺い対応している。地域の健康相談会に参加したり、スーパーへ買い物に出かけたりして気分転換を図っている。 | 利用者一人ひとりの希望に添って個別に対応している。また、地域のスーパーへ買い物にでかける支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 必要な物品やおやつは家族に連絡し持参して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族等とお話したい時はいつでも電話をかけてお繋ぎしています。又、家族からの電話もお繋ぎしている。本人の大切にしている人との関りを継続できるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共同空間や居室には温度・湿度計があり管理している。又、リビングから見える景色で春夏秋冬が感じられゆっくりと過ごせるようになっている。 | 共有スペースには、利用者の作品や写真が飾っており、居心地の良い工夫がされている。共有スペースから見える風景から春夏秋冬が感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に椅子やソファを置き、独りでゆっくり過ごせたり、馴染みの仲間と関りが持てるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寝具や使い慣れた馴染みの物を家族に持参して頂き家庭の雰囲気に近い工夫をしている。 | 家族には使い慣れた生活用品の持ち込みを呼びかけ、本人が使い慣れたものを使用できるよう、家庭に近い雰囲気にする工夫がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人のADLを把握し、出来る事を継続できるように支援している。 | | |